

犬ヶ岳・津民川地域の自然景観

平坦な山頂尾根にかいま見る特異な岩峰群

犬ヶ岳をはじめ経読岳、雁股山の峰々は、英彦山火山岩類のうち釣鐘山安山岩類の溶岩や耶馬溪層の凝灰角礫岩などからなり、尾根や山頂一帯は全体的に平坦な地形であるが、ところどころにこれらの岩石の露出した切り立った岩峰が見られます。犬ヶ岳の東側に切り立つ^{おいづる}笈岩や経読岳と雁股山を結ぶ^{ことうげ}古峠から望む^{のこいわ}鋸岩はその代表です。これらの岩峰群は犬ヶ岳山系に見られる耶馬溪式風景を代表する特異な地形景観です。



古峠から望む^{のこいわ}鋸岩の景



津民川のせせらぎ

季節風がもたらす溪流の特徴

犬ヶ岳山系の稜線に発する溪流は、県南の他の山系の溪流に比べて塩化物イオンの濃度が高いようです。これは海塩によると思われますが、この山系の山地に吹きつける海塩の多さを示すものであり、県南の祖母・傾山系に吹きつけるものより2倍ほど多いようです。これは北西の季節風による送塩が、南東の風で送られるものよりも多いことになります。

残されていた分布上貴重な植物たち

犬ヶ岳山系で確認された維管束植物は、シダ植物20科135種、種子植物100科643種の計120科774種です。この地域は九州の北部に位置するため、分布上の注目種とされる日本海要素の植物としてクマイザサ、ヒロハスゲ、ヒロハテンナンショウ、ヒメナベワリ、タイリンアオイ、タムシバ、カラムラサキツツジ、ニシキゴロモなどがあげられます。



サルメンエビネ（経読岳）

稜線沿いと谷間にわずかに残る自然林

犬ヶ岳山系全域の植生は、山麓から稜線近くまで植林がされ自然林の残る面積は少ない。このうち犬ヶ岳の稜線にわずかに残るツガ林と山頂部の稜線一帯で見られるブナ林はこの山系の自然林の代表です。なお特異な植生としてヒノキ林があります。この林は犬ヶ岳の西に連なる鷹巣山、英彦山にかけての岩場に自生していますが、犬ヶ岳の一ノ岳岩角地と笈吊岩の上辺でも確認されました。



ヒノキ天然林（犬ヶ岳一ノ岳崖地）

自然林は季節ごとに訪れる野鳥のすみか



尾根筋に残るブナ・ミズナラの林

犬ヶ岳山系の尾根筋に残る広葉樹の林では、春から夏にかけてカッコウ、ホトトギス、ツツドリなどの夏鳥がにぎやかに活動しています。秋から冬にかけては木の実を求めて群れで移動するアトリやミヤマホオジロが見られます。ウソ、イスカなども越冬しています。特定種のクマタカやヤイロチョウも確認されました。津民川沿いの水辺ではアオサギ、カワセミをはじめ冬期にはオシドリの渡来も見られます。

台地性溶岩と耶馬溪層がつくる特異な里の風景

犬ヶ岳山系の尾根部は台地状溶岩が重なり、しかも樹林に被^{おお}われているので、全般に岩峰群は見えにくいですが、耶馬溪層の岩峰が鋸状に浸食され、大きく3つに分かれた岩柱の切り立つ鋸岩と、溶岩台地が浸食により切り立った崖と露岩を見せる笈吊岩は耶馬溪式風景の岩峰群を代表する特異な景観です。また津民川流域の潜岩^{くぐり}の景をはじめ名勝耶馬溪に含まれる岩峰群は、静かな田園風景を背後から支え津民の里の風景をひき立てています。



岩と田園の津民の里（津民川流域）